

まどい

第195号

秋田県羽後町仙道中学校昭和30年卒

1955（昭和30年）創刊

2009年12月20日発行

186-0003 東京都国立市富士見台 3-6-404
tel/fax 042-574-8694 ・直 090-2332-4408

まどい編集室

http://www32.ocn.ne.jp/~madoi/
mail: madoi30s@cc.mbn.or.jp

二十一年を振り返ると・・・

高橋孝之助

もうすぐ平成二十一年が終わろうとしている。しかしこの一年なんと忙しかったこと。

一月には右肘の手術、その後今度はヒザ痛で病院通い、間を縫うようにゴルフのコンペ数回。

二月には「第二回ゴロ寝で語る会」の予約をしたと芳雄さんからのメール。相変わらず歯科整形へと病院通い。

三月、妻と娘と三人で旅行、県内三河三谷温泉。過去に同級会をやったところである。娘の運転する車で快適な旅であった。一泊でも中身の濃い家族旅行であった。

そして四月十八日「熱海同級会」である。話題の「しにせ旅館」である。短いが楽しい同級会ではあった。この頃はもう畑の方も忙しく、毎日夜になると腰が痛いのである。

五月になると、待ってましたとゴルフ仲間が毎週の様子に誘う。そんなに出来るわけねえだろう！と言いながら定額給付金でしっかりゴルフウェアを買ってしまった。

六月、一泊2ナウンドゴルフ。これが一日目で優勝！。二日目早朝、昨夜の祝

固める。家では車検と物いりが続いた。

七月、いよいよ嫌いな夏へ突入である。名古屋地方の蒸し暑さは日本一である。

七月九日クーラー初運転、又この日我が畑で枝豆の初収穫だった。出来が良く絶好のビールのつまみだった。

八月、だらだらと過ぎてゆくが、二十日芳雄さんが名古屋に来るといふことで、夜の会合まで我が家で語り合う。ウサギ小屋に驚いたのではないか。

十月十日実家から義姉の死亡連絡が入り驚く。十一日から十四日まで秋田暮らし。もっと良いときに帰りたいものだがこういう事が多くなるかも知れない。この月は大雨が続いた。

東海豪雨に匹敵する程の雨だった。十月にはまた一泊ゴルフ、同じ場所へ同じメンバーである。二十四名。

十一月は忙しかった。なぜなら娘と二人で「漢字検定」を受けようかと言うことになり、娘は三級、

いの飲み過ぎと疲れで散々な日である。又ヒザが傷む、シッパとサポーターで

私は五級を受験することにし、毎日勉強である。実に久し振りの試験である。会社に勤めていた時には「危険物乙四」を三度もスベって四度目にやっと受かった時の感動。あのときの感動をもう一度味わいたくて挑戦してみたが、五級というのは小学校五年生のレベルと知って少し恥ずかしいナと止めようかと思つたが、娘の脳トレよ！と言う言葉で受験した。

幸いにも二人共合格したが、試験管の「あと三十分」という言葉にあんなにドキドキするとは！。二月には四級に挑戦してみたと思つている。娘は準二級とか。この月も物いりだったナ。パソコン・プリンター更新ガステーブルと石油ストーブ更新。あアアアア...

扱て和雄さんからのメールによりまして十月三十日に秋田同級会をトシトランドで行ったとか。楽しい場面が想像されます。次回は東京でどうかという話も出たとか。はとバスなどどうかなと思つたりしているのですが、やはり在京の人達にお骨折りに頂かないとね。私はどこへでも行きます。



のこり後わずか、又一っ歳をとりますかどうか皆様良い歳をお迎え下さい。

地元だより

今年地元での集まりは一月以来でしたが、昨日十一月三十日、久々に「としとらんど」に集まりました。例年になく早い十一月三日の初雪には驚きましたが、そのあとは降らず、このところ晴れつづきで、特に昨日はすばらしい小春日和で、宴会場の部屋からの眺めにも明るく楽しい会にしてもらったようでした。

「としとらんど」に

十三人

飯塚和雄

今年も今日から十二月、月日の経つのが年々速くなって行くような気がします。今年を振り返るのはまだまだと言われるかも知れませんが、みなさんにはどんな年だったでしょうか。私などは日ごろあれこれ薬の世話になっているほうですが、誕生日とともにいよいよ七十歳か(ー!)と実感しながらも、まずは元気に過ごしたことになるようなことに感謝しています。

今回女性軍は阿部アイ・

岩崎いね子・小沼ツヨ・柴

田美智・嶽石セイ・田中康

子・村上ヨコさんの七名、

男性軍は大友行・小沼喜代

雄・佐藤宗夫・武田龍太郎・

豊島健一・飯塚和雄の六名

でした。みなさんとても元

気で、全然変わっていないなあとい

う印象を強くなりました。が、このよ

うな集まりにはいつも元氣な姿を見

せてくれていた佐藤正二君は現在闘

病中です。あんなに頑健な佐藤君が

と思わずにはいられません。お互い

からだには本当に気をつけなければ

と思います。

いつもながらの歓談で盛り上がり

たひとときでしたが、私たちは他の

(先華)学年と比べて集まりが少な

いのではないかと、これからは今

まで以上に集まるようにしようとい

う声も聞かれました。また、地元だ

けでなく全体の同期会は箱根での会

以外は地元での開催でしたので、今

度は地元の私たちも出かけたほうが

どの声も何年か前からありました。

今回の話し合いではいつ・どこでと

絞り込むまでには至らなかったもの

の、せっかく(東京)方面に行

くからには見物もしたいものだ

との要望もありました。実現の

ためにはもっともっと具体的に

煮詰めていかなければなりません

んが、もし東京または東京近辺

でとなった場合には、東京方面

のみなさんにいろいろとお世話

にならなければなりませんので、

よろしくお願いいたします。お

勧めのどこころなどを教えていた

だきたいとも思っています。

まずは、地元の近況です。み

なさん新型インフルなどに気を

つけられお元氣にお過ごしくだ

さい。

(H21・2・1)



真途で一杯やってるよ!!

携帯の呼び出しが鳴って来たのに全く気づかなかつた。それから数日して気にもなっていたので折り返しベルを鳴らして見た、出なかつた。二度三度。ようやくでたが「違いますよ」と切られてしまった。嫌な予感がしたので家の固定電話へ掛けてみた。二回・三回。ファックスの音がする。さては何かがあつて電話くれたのかと気が高まる一方だった。着信履歴からもう一度携帯に掛けてみる。でた!「今か?真途で一杯やってるんだよ!」「俺まだ現役だから忘年会だ忘年会!」わざわざ真途まで行って忘年会をやる奴が居るか?

「今、亀戸だ」……「今か、真途だ」

「ってか!」の宇之助さん。上機嫌だ。亀戸から埼玉まで遠い、帰りは遠いんだから気をつけろよ!」

「なあに十分だよ!」???

電話をくれたのは、今年義姉が亡くなり年賀状は出さないからと言いたかつたらしい。そんなわけでごとしの年賀状はないとの事だった。

「段つけを羽後町の話題」

NHK「クローズアップ現代」 故郷に「美少女」が来た

佐藤 芳雄

夜中にテレビのチャンネルを回しているとき、ちらっと見覚えのある絵が出てきたのでもしかしたらと思ったら、やはり羽後町のことだった。

十二月二日に放映されたNHKの「クローズアップ現代」でした。

美少女と言えば一昨年美少女イラストのパッケージで羽後町産「あき



たこまち」が爆発的な人気を呼び、その後お酒などにも使われやはりヒットしたものでした。いわゆる「萌え効果」と言われるものでした。それと関連しているかどうかは解りませんが、「かがりび美少女イラストコンテスト」なども行われ遠くから若者が来るようになったと言われます。

東京に住む羽後町出身の山内貞範さんは故郷羽後町を何とかもっと元気にしたいとの思いから「町おこしin羽後町」を出版されています。羽後町の地元の人には解らない「埋もれた自然や歴史、文化を掘り起こしそれを新しい時代のイラストで紹介していきたい」との願いのようでした。



著者 山内貞範 B5版96ページ
発売 2009年7月6日
定価 1260円

娘がまだ中学生の頃目が顔の半分もありそうな漫画を書いていた。「又漫画を書いているのか」というと「漫画じゃないよイラストだよ」と何時も言われていました。新しい物と古い物のコラボレーションと言われている絵が可愛いだけに頷ける所もあります。写真の「鈴木家住宅」などはいい看板だと思っ。

今度の放映では、東京から羽後町に十回も訪れているという平木健太郎さんが、町の人達とのふれあいや茅葺の家など素朴な故郷のたたずまいにふれ、きっかけは美少女であったも今では羽後町に魅せられて居ると言います。

二年前、西又菜さんのイラストパッケージのコメが発売されたときしか

も若者の注文が殺到したと言われました。われわれ年寄りからすると、中身よりパッケージかと、しかも「漫画の絵で！」実は「世の中若者だけでは無いんだよ！」との自分たちが出来なかつた悔しさに似た気分であったかも知れない。インターネットによる情報の早さとその対象の大きさが、町おこしにも大きな影響を及ぼしていると思われま。

「クローズアップ現代」ではゲストコメントーターとして映画作家の河瀬直美さん(第82回カンヌ国際映画祭で「金の馬車賞」を受賞)は出身の奈良県の取り組みも紹介されま





笠形そり会館内には、沢山のポスター・ミュージックポスターが
出されています。

したが、「こういうのは必ず落ちてくると思うので「継続」が問題になってくると思います」と話ながらも「これから町をになっていく若者がまた新しいストーリーにしていくなじまないかと思う」と言っていました。

仕掛け人でもある山内さんの出版された本は、

▽美少女イラスト入り「あきたこまち」
▽ステイックポスター in 羽後町
▽かがり火美少女イラストコンテスト

全国に衝撃を与えた美少女イラスト

の町おこしはこの若者が切り開いたとされる内容で。

山内さんは

奇抜なことは何一つなく基本を忠実にやって来ているだけなのです

①好きなことや興味のあることをやる。

②埋もれている資源を発掘する。

③新旧の文化を発展させる。

この三点が私の活動していく上での基本理念です。

と本文には書かれています。

これが地域に置いていろいろなことをやっていく上で重要だと思っています。

今年出版された本「町おこし in 羽後町」も美少女イラストを使ってやってみたくに書かれています。

山内さんも、今後について考えていることは、このまま美少女のイラストやキャラクターでの町おこしでは継続も難しいと思い、『美少女とは一八〇度違う内容になっていると思います』というように準備期間がかかるでしょうがやっていきますと語っていました。

過ぎた女房だからよ!

奥さんは言う。「そうそう先になんぞ逃げませんよ、ナンにも出来ない人だから私がかんと見てやらな」とね「旦那は言う「俺は女房に逝かれたら生きていけないよ」

なんとという夫婦なのだろう、こどもが授けられなかった事もあるがお互いに支え合う二人のことを思うと涙が出てきます。如何に歳とは言え、自営業ならなおさら大変な中で、奥さんの看病に専念していると思うと全くえらいなと思う。

いま自立支援を進めている介護・看護に絡んでだがこれがくせ者のように少しでも動けたら勝手にやれって冷たいものだとかだれかが言っていました。

一人では大変だから介護支援など保険で頼めますよと言ったら。「自分で出来るから」という。これは相当惚れていないとできることではなさそうだね。心配のつもりがあてられてしまう一幕です。

奥さんはもとより自分も大事にしてくださいな

これ、難波の社長勝ちゃんのこと。

編集手帖

毎年のように「今年はいろいろなことがあったなマ」と思い起こされます。私達同級生にとつては、ミチさんの他界によって又一人故人の数を増やすことになりました。現代ではまだ早いと言えり歳でもあります。ご冥福を祈ります。

何よりも大きいのは「政権交代」まだ四ヶ月そこそこですがこれまでの政権があまりにも長く、「コンケリートから人へ」の転換はそうたやすいことではなさそうです。どうやらこれは長い目で見ることも知れませぬね。

地元での同級会では、今度は東京方面での会と声があがっているようです。いろいろ見学したいとか、東京に住んでいても余り東京を知らない、実は本当のこと、専門の観光業者を選ぶ事が必用の様です。何とか成功させたいものです。在京のみなさんご協力をお願いしたいと思います。

「まどい」もいよいよ二百号に到達します。時間にして現在で五十五年。長い間長くできたものと思っていますができれば二百号で記念誌ができればと思っています。

よいお年をお迎え下さい